

〇一般介護予防事業

(1) とうとう学び舎 全小学校区で開校（令和5年6月から開始）、各学校定員 15 名

学校の授業になぞらえて、国語・算数・音楽・学活などの授業を実施。給食も食べたり、日直を当番で回すなど、懐かしい学校生活を体験できる。社会参加を促し、地域の方同士の交流を促進する。

参加者数：春木台小学校 8 名、諸輪小学校 5 名、音貝小学校 11 名、高嶺小学校 15 名、兵庫小学校 5 名、東郷中学校 12 名 合計 56 名



(2) 自立支援応援事業

ア リハビリ職派遣

実人数：5 人（延人数 6 人）（内訳 認定なし：1 人、申請中：2 人、要支援 2：1 人）

内 容：自宅に訪問し、身体状況の評価を行うとともに、本人や家族の困りごと等を踏まえ、環境調整を行い、具体的な助言を行う。

今後の方針：リハビリ連絡協議会で、事業の振り返りを行っている。介入後、正しい支援やサービスに繋ぐことができるよう、1つのステップとして「短期集中予防サービス」について情報交換をしながら共通認識を図り、事業を連動させ自立を促せるような体制を整えている。

イ 管理栄養士派遣

実人数：2 人（延人数 2 人）（内訳 認定なし：1 人、要支援 2：1 人）

内 容：ご家族の希望で、来所での相談が 1 人、訪問が 1 人であった。
ご家族が調理されており、調理に行き詰まりを感じ、相談に繋がったという経緯。

今後の方針：食事は日常生活で要となるため、独居高齢者等への介入も行えるよう、ケアマネジャー等への事業の周知啓発を行っていく。居宅療養管理指導への繋ぎや住み分けをしていく必要がある。



○在宅医療・介護連携推進事業

(1) 在宅医療介護マップ

在宅医療についての概要や町内の医療機関や介護事業所等が掲載された冊子。

地図にも落とし込み、所在地を分かりやすく示す。

令和5年11月頃完成予定。

掲載内容

- ・医療及び介護専門職の役割
- ・介護が必要になったら
- ・急変時の備え
- ・穏やかな最期の備え
- ・町内医療機関、歯科医院、薬局、介護保険サービス事業所の一覧及び所在地（マップ）
- ・介護保険サービス事業所の一覧及び所在地（マップ）



(2) 在宅医療・介護フェア

認知症希望大使 丹野智文氏（宮城県仙台市在住）と認知症専門医 遠藤英俊医師を講師として、「認知症になっても住みやすいまち（仮）」をテーマに講演会を開催。認知症当事者の目線から、認知症と診断された時の思いや、生活の工夫、抱えている思い等をお話しいただく予定。その他、認知症当事者同士が思いを語る「本人ミーティング」の開催や、認知症当事者の家族の「家族交流会」を開催する。また東郷町の認知症施策に関する事業を紹介する展示や在宅医療・介護連携について普及啓発するための展示を実施予定。

○認知症総合支援事業

(1) アルツハイマー月間

認知症の普及啓発のため、下記ア～キのイベントを令和5年9月に実施した。

ア 役場庁舎内展示（令和5年9月1日～9月29日）

「認知症本人の気持ちに寄り添って」をテーマに、認知症当事者の抱えている気持ちや対応方法について紹介した。その他認知症カフェ等の事業や相談窓口の紹介を行った。



イ 図書館展示（令和5年9月1日～9月30日）

図書館の一角に、認知症書籍の特設コーナーを設け、認知症地域支援推進員やキャラバン・メイトの推薦図書を紹介した。手に取りやすいように特設コーナーに本を設置したり、推薦図書の一覧を展示した。



ウ リーブルとうごう展示（令和5年9月1日～9月30日）

LivRTOGO まちの窓口（ららぽーと愛知東郷店内）にデイサービス等に通っている認知症当事者の方に、作品を制作していただき「オレンジ作品展」として作品を展示した。その他、認知症にまつわる絵本の紹介や認知症施策の事業についてのチラシの設置を行った。



エ こども向けイベント 絵本の読み聞かせ&缶バッジづくり

日 時 9月2日（土）午後1時～2時、午後2時30分～3時30分

参加者 親子13組（親：13人、子：16人 合計29人）

小学生とその親を対象に、認知症について楽しく学んでもらうイベントを実施。絵本やアニメーション動画を通して認知症について学んだ。今後、児童館や学校等で積極的に実施できるとよい。



オ 認知症サポーター養成講座

日 時 9月17日（日）午前10時～11時30分

参加者 20人(40代：5人、50代：2人、60代：7人、
70代：4人、80代：2人)

LINE 配信にて通知した結果、若い世代の申込みがあった。その後の認知症サポーターステップアップ講座の申込みに繋がったり、認知症カフェ等のボランティア意向のある者を募ることができた。



カ 認知症サポーターステップアップ講座

日 時 9月22日（金）午後1時30分～3時

参加者 19人

「認知症のイメージ」や「認知症の人への対応」について掘り下げて学ぶ研修を実施。家族や友人が認知症であり支援をしている方や、認知症のご家族等の介護を終えられた方、接客業等をされている方の参加があった。今後も認知症の理解を深めるための講座の企画し、ボランティア等を増やしていけるよう働きかける必要がある。



キ 認知症フレンドリー講座

日 時 10月1日（日）午後1時30分～3時30分

参加者 34人

VR体験や認知症当事者のメッセージ動画等を通じて、認知症の体験をしていただき、認知症当事者の気持ちを考える機会となった。



(2) 認知症ケアパスの改訂

認知症と診断された直後や認知症の疑いを感じ始めた当事者及び家族に活用していただけるように、認知症ケアパスの内容を見直し、大幅改定を行う。介護保険サービスの紹介の中心であった構成から、認知症経過のポイントや病院受診の方法、相談先や生活の工夫などの内容を盛り込み作成をする。令和5年10月から作業部会を立上げ、ケアパスの内容の検討をしている。

※認知症ケアパスとは：認知症発症予防から人生の最終段階まで、認知症の様態に応じ、相談先や、いつ、どこで、どのような医療・介護サービスを受ければよいか、流れをあらかじめ標準的に示したもの

○生活支援体制整備事業

(1) 第2層協議体を月1回定期的に開催

北部と南部の包括圏域に1つずつ第2層協議体を設置し、月1回定期的に開催をしている。地域の情報交換をしながら、「互助」を基本として、住民同士でできることを皆で話し合う場として実施をしている。現在は、情報交換を中心に関係性を構築しながら、ざっくばらんに話を重ねている。

＜北部圏域＞



北部 よく話が挙がるテーマ
ゴミ出し・見守り（犬の散歩等）

＜南部圏域＞



南部 よく話が挙がるテーマ
多世代交流・認知症の見守り

(2) 南北協議体交流会を実施

半年に1回、北部と南部の第2層協議体が合同で集まり、交流会を開催。さわやか福祉財団 長瀬氏を講師で招き「協議体とは何か」という原点に戻りながら、互助の活動創出を目指している。

○権利擁護支援事業

尾張東部権利擁護支援センターあすライツ主催で、権利擁護と地域福祉の担い手となる市民後見人の養成研修を開催します。

【説明会】13:30～16:30

①11/8(水) 講師：渡辺哲雄先生

(中日新聞長期連載『老いの風景』作者)

場所：豊明市共生交流プラザカラット体育館

②11/18(土) 講師：加藤昭宏先生

(同朋大学社会福祉学部社会福祉学科専任講師)

場所：豊明市共生交流プラザカラット体育館

【ミニ説明会】13:30～15:30(講演はなく説明会のみ)

③9/27(水) 豊明市共生交流プラザカラット北館活動室

④10/18(水) 東郷町役場2階大会議室

⑤10/25(水) 日進市民会館展示ホール

